



令和3年度ノーリフティングケア普及促進事業
モデル施設実践報告会

腰痛者ゼロの実現に向けて

社会福祉法人 光輪会特別養護老人ホーム 常照苑サンシャイン

1

社会福祉法人光輪会 基本理念
「わたし達は、利用者に自分の親や自分自身が
提供されたいと思うサービスをおこないます」

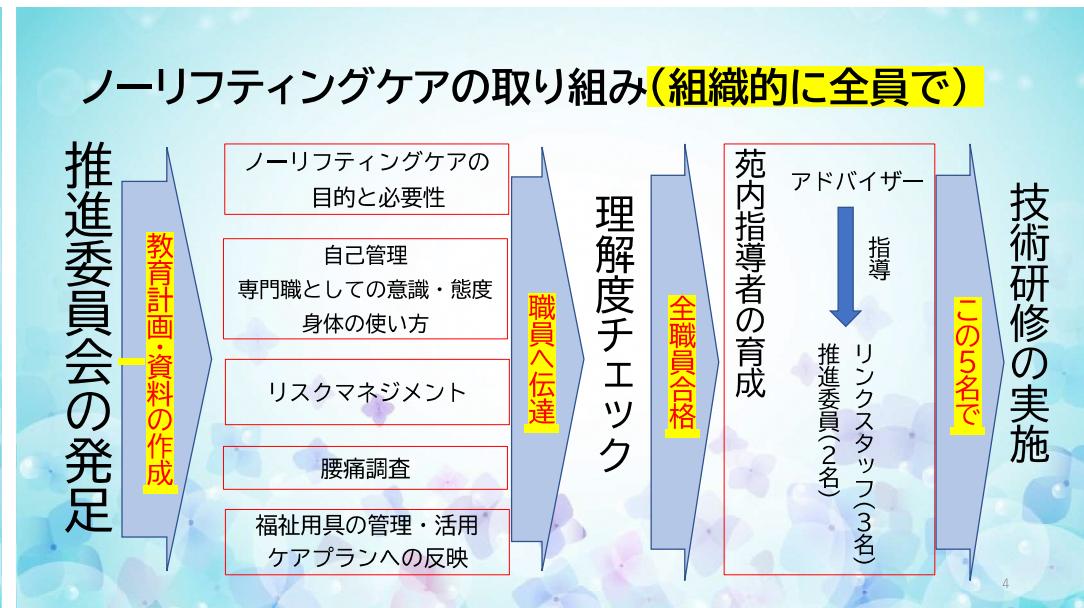
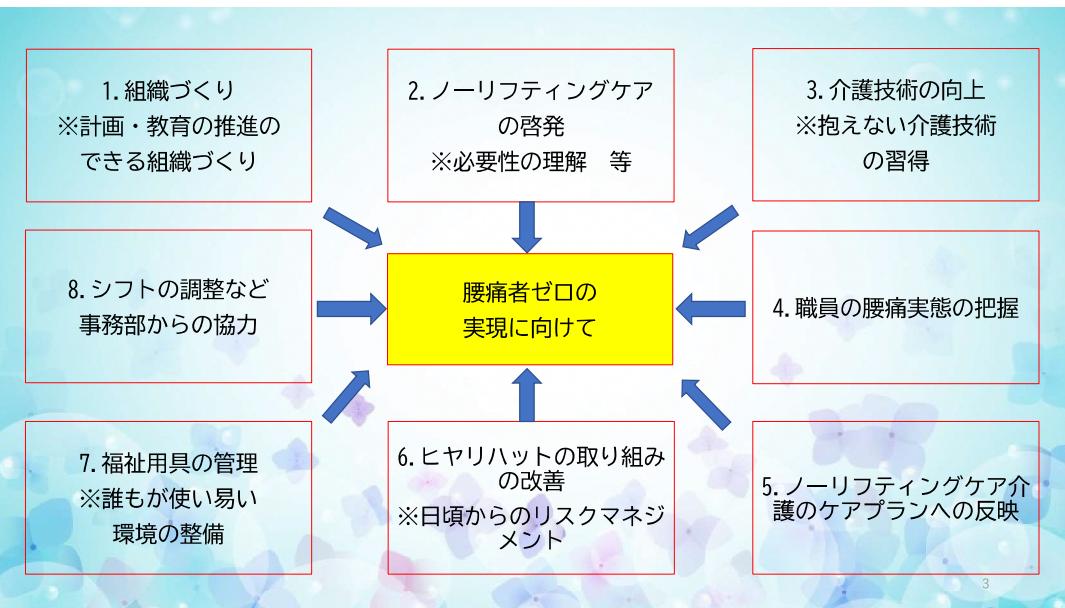
介護職員 18名
EPA介護福祉士候補者 4名

【取り組む動機】

社会福祉法人「光輪会」において、昨年度から法人内の常照苑くすのき通りが、このノーリフティングケア促進事業モデル施設として取り組みを先行して始める。

そこで、人事異動やサービスの均衡からも常照苑サンシャインが足並みをそろえることが望ましいと判断した。

2



介護技術の向上

苑内指導者の育成



職員の技術指導分担に成功！！



介護職員全員がノーリフティングケアの技術の向上に繋がった！！



職員は、いつでも疑問や方法について相談、指導を受ける体制ができた！！

自施設の教育資料を作成

ノーリフト®ケアの必要性と目的の理解

ケアとは
方において安全で安心ない・引きずらないケア

目的の達成に向けた操作手順を示すマニュアル

職員一人ひとりが「働き方を変えること」
がかかる？

行うケアがやさしい？
道具のケアは自立を阻害する？

自己管理専門職としての意識・態度

プロとしての心構え
プロとしての心構えでないと、腰痛で困るでしょう。

腰痛の原因を理解する

腰痛健康消費

動きやすい服装

自己管理身体の使い方

中腰姿勢はどういう状態か？

腰痛の原因を理解する

いわ作業姿勢

体位移動で介助を行う

ノーリフティングケア用のファイルを作成し各フロアに設置し伝達

取り組み前の状況

福祉用具は揃っていた・・・

技術教育もあったが、技術を学んで終わり！

そこから現場へ活かすサイクルが整ってなかった



福祉用具の管理

- 誰もが使いやすいう環境を整える
- 正しい福祉用具の使い方を習得する

福祉用具	保管場所	活用対象者(利用者)	活用場面	ノーリフティング推進委員会
				メンテナンス
スライディングシート	こすもす (5枚)	職員中央通路(カゴの中)	A様・B様・C様・D様	・勤務終了後アルタ・滑りが悪く で吹き上げし元のった際は交 換の時期とな ります
	たんぽぽ (6枚)	職員中央通路(カゴの中)	E様・F様・G様	体位交換の際、使用
スライディングボード	こすもす (2個)	H様 I様 (居室)	H様・I様	汚れた際はアルタン で拭き上げ行う
	たんぽぽ (1枚)	J様 (居室)	J様	車椅子からベッド移乗 ベッドから車椅子移乗 時使用

6

腰痛者の実態と状況把握

当初の腰痛者 (12名)
現在の腰痛者 (8名)

当初の腰痛調査で思いのほか腰痛者が多いことに驚いた！

勤務前に必ず体操を実施！
実施後はチェックを入れ実施率の確認が出来る！

図3

図1

「●」腰痛あり
「○」腰痛なし
「-」は公休日

Bの職員は一度も腰痛がない者

定期的な調査を実施
(3ヶ月毎)

腰痛者にヒヤリングを行なう

3ヶ月毎では不十分

毎日の感染対策の検温記録表に腰痛欄を増やすことで状況の把握ができる

図2

N O	職員名	検温 °C		間違なしがある時で 出勤前 1回目 2回目 間隔人 数 味覚 嗅覚 感覚				腰痛
		36.5	36.4	36.5	○	○	○	○
1	A	36.5	36.4	36.5	○	○	○	○
2	B	36.5	36.4	36.5	○	○	○	○
4	C	36.5	36.4	36.5	○	○	○	×
5	D	36.5	36.4	36.5	○	○	○	○
6	E	36.5	36.4	36.5	○	○	○	○
7								
8								
17								
19								
20								
21								
22								

24-12

14-15

ケアプランに反映させる

職員の誰もが、入居者様それぞれに合った福祉用具を同じように使うことを目指す！

居室担当者が提案



ケース会で協議・確認

各担当で記入

入居者		提出者	
〔改善すべき点、した方がいい点など〕			

提案具体例

- 両上肢の皮下出血が増えている。アームサポートとの接触が考えられる為、移乗時は両方上げる。
- ベッドから起き上がりの時は手すりを握られる為、ギャッチャアップしても安定されている。
- ベッド⇒車椅子間は座位も安定しているから移乗ボードを検討しても良いのではないか？

ケース会議後委員メンバー・ケアマネで作成

課題	長期目標	目標期間	短期目標	期間	補助内容	
					サービス内容	期間
ノーリフティングケアを実践し身体的な苦痛や苦痛を軽減して安心して過ごしたい					<ul style="list-style-type: none"> 姿勢の確認を行いグローブ使用し除圧する。 姿勢を整えるときや休交時はスライディングシートを使用し負担を軽減する。 移乗時はフレックスボードを使用する。 	
同上					<ul style="list-style-type: none"> 休交時はスライディングシートを使用し負担を軽減する。 移乗時はフレックスボードを使用する。 	
同上					<ul style="list-style-type: none"> 車椅子へ移乗する際、頭部ベッドアップを行い、端坐位姿勢にする。 姿勢を整えるときや休交時はスライディングシートを使用し負担を軽減する。 	

ヒヤリハットの取り組みの改善

以前より1日1件のヒヤリハットの取り組みは実施していたしかし

入居者の視点でのみ取り組みを行っていた
職員のケガや腰痛の視点はなかった

以前は入居者の視点でのみヒヤリハットが出されていた

ヒヤリハット記入用紙		ユニット()丁目)
利用者名	様	記入者
発見(発生)日時	月 日 時 分頃	場所 居室・ホール・廊下・トイレ・浴室・脱衣室
利用者関係	転倒・打撲・歩行での歩行・ケガ・異食・誤薬	
フロア関係	利用者トラブル・離設・環境面・その他()	
簡単な内容を記入		
1		
職員関係	腰痛・ケガ・環境面・転倒・その他()	
例:「介助した時、腰に痛みを感じた。」「○に足をぶつけた。」など自分や他の職員に関する内容を記入		

各ユニットに設置！月毎に集計し掲示！

10

ヒヤリハットの報告の変化

1. 件数

取り組み後				
8月	9月	10月	11月	12月
33件	66件	90件	99件	61件

取り組み始めた9月から明らかに報告件数が増加した

2. 内容の変化

件数	職員の怪我や腰痛、事故に直結するリスクのあった内容				
	日にち	ユニット名	時間	誰の対応時に	種類
1	たんぽぽ1	11:30			腰痛
2	たんぽぽ1	14:00			腰痛
3	たんぽぽ1	7:00			腰痛
4	たんぽぽ2				腰痛
5	たんぽぽ2	13:30			腰痛
6	たんぽぽ2	11:00			腰痛
7	たんぽぽ2	14:00			腰痛

職員の怪我や腰痛に関するものに変化した

11

職員の意見・感想

- 福祉用具の適切な使い方を改めて理解できた。
- 自分が入居者役をして体験することで、シートを活用した方が、体が快適ということを実感しました。
- 福祉用具を日常的に使用できるようになった。
- 実際に入居者で行う場合は、しっかりとアセスメントを取ることが重要だと感じました。
- ◇仕事中に入居者の方を対象に教えてもらう時間が欲しい。
- ◇まだリスクの理解が浸透しておらず、速さを重視しているように感じられる。
- ◇介護スタッフだけの取り組みになっていたように感じたので、来年度は全体を巻き込んだ取り組みになればと思います。

来年度に向けて

- ノーリフティングケアの研修1年目が終わったからと言って、取り組みを緩めることなく、継続して実技の伝達講習や理解度チェック等の実施を行っていく！
- 来年度は全職種で腰痛者ゼロの実現に向けて日々取り組んでいく！

12